



代表理事組合長  
谷口 熊一

年頭のごあいさつ

未来につながる「豊かな食」・「夢ある農」に向けて

新年あけましておめでとうございます。

2020年の輝かしい新春を迎え、謹んでみなさまのご繁栄とご多幸・ご健康をお祈り申し上げます。

常日頃は、JA越後おぢやの事業運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は新天皇陛下の御即位による「平成」から「令和」への改元、消費税率の変更、度重なる自然災害など変動の一年でした。JA管内においても、基幹作物である水稲の小千谷市を含む魚沼地域の作況は「100（平年並）」であったものの、猛暑・フェーン現象の影響をもちに受けて品質低下が著しく、1等米は主力品種コシヒカリ7・5%（全品種9・5%）、また3等米が24・5%（全品種22・3%）を占め、過去にない厳しい状況となりました。しかしながら、コシヒカリの食味は、新潟県が品質低下を受けて開催した「令和元年産米の品質に関する研究会」では、1〜3等の食味差異が認められないと報告されました。お客様からも例年同様おいしいとの声をいただき、少しは安堵しています。

園芸については、新規参入・生産拡大にご協力をいただきました。販売面では主力作物目力フラワー、人参は順調でしたが、すいか・メロンは販売時の天候不順・市況等の影響により厳しい結果となりました。

JA自己改革にかかる取り組みは、まだまだご期待・ご要望に十分応えできていませんが、水稲関係では「主要土づくり肥料特別価格」「産米銘柄誘導対策支援」などを、園芸関係では「新規生産者支援」「作付面積拡大支援」など、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に取り組んでまいりました。

基幹作物である米は、農水省による今年産主食用米等適正生産量は、消費・人口減少の影響により前年産より更に10万t〜19万t減とされており、厳しい状況が続いています。JAでは、新潟県農業再生協議会「令和2年産米の需要に応じた生産に係る推進方針」を踏まえた小千谷市農業再生協議会「米政策基本方針」のもと、「JAグループ新潟・新潟米基本戦略」の重点戦略にJA販売戦略を加味し、播種前・複数年契約などにより、確実な販売に取り組みます。また元産の反省を踏まえ、生産者の協力のもと指導機関と連携して、より一層消費者・実需者から求められる高品質で安全・安心な「おぢや米」の生産を進めます。また園芸では、県が昨年7月に「新潟県園芸振興基本戦略」を策定し、令和6年度までに「1億円産地を倍増する」目標を掲げ推進することとしています。当JAにおいても、昨年策定した「第4次地域営農振興計画」に基づく園芸振興計画に県の基本戦略を加味し、主力品目のカリフラワーで販売高1億円産地を目指すなど、引き続き園芸振興に積極的に取り組みます。

生産者のみなさまには、「需要に応じた米づくり、水田フル活用」並びに園芸振興に、ご理解とご協力をお願いいたします。



J A運営では、来年度は「第5次総合3カ年計画」の第2年次目となります。掲げました経営ビジョン『未来につながる「豊かな食」・「夢ある農」』『協同の力を結集した「明るい地域づくり」』『地域の要望に応え「信頼されるJ A」』の実践に取り組んでまいります。また農業・農村・J Aを取り巻く環境変化にも対応していかなければなりません。将来に渡って地域農業を発展させ、安心して暮らせる豊かな地域社会を築くためには、「持続可能なJ A経営基盤の確立・強化」が喫緊の課題です。既に「新たな合併構想」に基づき県下6地域（上越、中越、魚沼、下越北、下越南、佐渡・注・下越は2地区での検討となりますが、1J Aをめざす方向性は変わりません。）で研究会が立ち上がり検討を始めています。加えて、総合事業を行うJ Aとして機能を発揮するため、環境変化に対応した事業運営を行わなくてはなりません。そのためには、「経済事業の収益力向上・収支改善」「店舗・ATM再編」などに取り組んでいく必要があります。こうした取り組みは、組合員のみなさまのご理解が重要でありますので、検討結果を踏まえ座談会等でご説明させていただきます。

こうした状況下ですが、J Aの基本的な姿は、「食と農を基軸として地域に根差した農業協同組合」として、また地域の一員として、その行う総合事業により組合員・地域のみなさまとともに農業並びに地域振興に一体的に取り組むというものです。地域農業の構造変化や、高齢化等による農業者の減少と多様化に一層拍車がかかります。J Aだけでは目指す「持続可能な農業」「豊かで暮らしやすい地域社会」を実現することはできません。組合員をはじめ地域のみなさまからも、ぜひJ Aの事業や活動に参加をいただき、「農業と地域経済を共に支えるパートナー」として応援をお願いします。また「自らの改革＝J A自己改革」に終わりはありません。引き続き自己改革に取り組み、基本目標「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実践を加速してまいります。

今年の干支は「庚子（かのえ・ね）」です。今年の干支は、植物で見たとき「変化が生まれる状態、新たな生命がきざし始める状態」だそうです。「全く新しいことにチャレンジするのに適した年」とも言えるそうです。東京オリンピック・パラリンピックの年でもあります。みなさまも令和2年、新しい目標に向かって進まれることをご期待します。

最後に、今年こそ「災」がなく豊作であり、みなさまが元気で明るく過ごせる、より良い年であることを心よりお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。

あけましておめでとございませう

本年もJ A越後おぢやをよろしくお願ひいたします

|         |       |    |       |    |       |    |       |        |       |
|---------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|--------|-------|
| 代表理事組合長 | 谷口 熊一 | 理事 | 金崎恵美子 | 理事 | 安部 功  | 理事 | 堀澤 富一 | 代表監事   | 大矢 保  |
| 常務理事    | 藤島 睦  | 理事 | 横山 慎吾 | 理事 | 和田 裕行 | 理事 | 樋口 秀夫 | 監事     | 丸山 啓治 |
| 常務理事    | 岡村 忠栄 | 理事 | 今井 信一 | 理事 | 和田 弘  | 理事 | 高橋 晴美 | 員外監事   | 仲 巳津夫 |
| 理事      | 川上 忠義 | 理事 | 久賀 満  | 理事 | 岩田 哲也 | 理事 | 横田 雅夫 | 外 職員一同 |       |
| 理事      | 大塚 嘉和 | 理事 | 谷風 政春 | 理事 | 黒崎十代司 |    |       |        |       |